

7月21日（日） ショートメッセージ

聖書 使徒言行録 15章22節～35節 （新約 243頁）

メッセージ 「使徒会議の決議」

そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。

（使徒言行録 15章22節）

（1）エルサレムでの使徒会議の結果、会議を取り仕切るヤコブは、ペトロの証言は預言者アモスの預言（アモス書9章）と一致していることから、こう判断しました。

「神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」（19節～21節）

そして、会議の決定を手紙に記し、エルサレム教会で指導的な立場にあったバルサバと呼ばれるユダ、シラスの二人に持たせ、パウロ、バルナバと一緒にアンティオキアへ派遣することとしました。

（2）この書簡の中には、分けると六つの事が記されています。

一つ目は、アンティオキアをはじめシリア州、キリキア州に住む異邦人キリスト者を兄弟と呼ぶ挨拶。二つ目は、エルサレム教会のある者たちがアンティオキアの教会に行き、勝手にいろいろなことを言って騒動を起こし、動揺させたとの報告を受けたが、この人たちがやったことは私たちの指示ではないこと。三つ目は、エルサレム教会の中からユダとシラスを選んで、バルナバとパウロに同行させて派遣すること。四つ目は、バルナバもパウロも、私たちが大切にする者であり、主イエス・キリストの

名のために身を献げている立派な者であること。そして、五つ目、六つ目はアンティオキアの教会で論争になった事への答えです。「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。」（28節）

「すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです」（29節）

アンティオキアに派遣された一行は、教会へみんなを集めると手紙を渡しました。手紙を読んだアンティオキアの教会の人たちは、会議の決定を喜びました。この決定は励ましに満ちていると感じたからです。

この後、ユダとシラスはしばらくの間アンティオキアの教会に滞在し、教会の人たちと話をすると、励まし、力付けたあと、エルサレムへ戻って行きました。バルナバとパウロは残りました。

（3）エルサレム会議でのペトロの先進的な発言からすると、使徒会議での決定は「汚れ」を避けることが条件として記されている分、後退した決定でした。

しかし、この決定はバルナバ、パウロをはじめアンティオキアの人たちの異邦人伝道にお墨付きを与えました。早速、パウロは、第1次宣教旅行で訪れた町を再訪しようとバルナバに提案しました。第2次宣教旅行の提案でした。（多田玲一牧師）